

令和8年度第1回陸前高田市子ども・子育て会議 議事録

1 日時 令和8年7月30日（木）午後3時00分～午後4時10分

2 場所 陸前高田市コミュニティホール 2階大会議室

3 出席者

出席委員（13人）

石田 裕夏 委員、 大木 智春 委員、 菅野 千代 委員、 村上 一朗 委員、
熊谷 美里 委員、 関戸 文則 委員、 戸羽 進 委員、 戸羽 良一 委員、
中村 賢司 委員、 菅野 敏也 委員、 松田 秀樹 委員、 村上 千佳 委員、
脇坂 健吾 委員

欠席委員（4人）

及川 恭平 委員、 加藤千代治 委員、 佐藤 恵子 委員、 出羽 早苗 委員

4 傍聴者（1名）

千葉 美幸

5 事務局 福祉部子ども未来課長 千葉 祐子

福祉部子ども未来課長補佐兼子育て支援係長 吉田 保永

福祉部子ども未来課子ども家庭係長 蒲生 恵美

福祉部保健課母子保健係長 蒲生 紋子

教育委員会事務局学校教育課長 吉田 亜矢子

6 配付資料

- ・ 陸前高田市子ども・子育て会議委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 次第
- ・ 資料1 陸前高田市子ども・子育て会議について
- ・ 資料2 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について
- ・ 資料3 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）基本方針に基づく事業の取組状況
- ・ 資料4－1 第3期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績
- ・ 資料4－2 第3期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績
- ・ 資料4－3 放課後児童対策の実績
- ・ 資料5 陸前高田市こども計画策定アンケート調査の実施について
- ・ 資料6 市内保育施設の認可定員の変更について
- ・ 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第3期）

7 議事録

1 開会

2 委嘱状交付

3 挨拶（子ども未来課長）

4 委員並びに職員紹介

5 議事

(1) 陸前高田市子ども・子育て会議について

（事務局説明要旨）

- ・子ども・子育て会議の法的根拠、設置目的、今年度の会議予定について説明。

（質疑応答・意見）

- ・なし。

(2) 陸前高田市における子ども・子育て支援事業の状況について

（事務局説明要旨）

- ・教育・保育、地域型保育事業の実施状況の説明。
- ・地域子ども・子育て支援事業の概要及び昨年度実施状況の説明。
 - ・延長保育事業…保育短時間認定者への延長保育は市内全保育所・園で、保育標準時間認定者への延長保育は法人立4保育園で実施。昨年度の利用は短時間認定者で延べ利用者数は99人、標準時間認定者で延べ3人の計102人が利用。
 - ・一時預かり事業…市内全保育所・園で実施。昨年度は4施設で延べ60人が利用。
 - ・病児・病後児保育事業…気仙保育所で病後児保育を実施。昨年度は延べ10人が利用。
 - ・乳児等通園支援事業…令和8年度から気仙保育所で余裕活用型を実施。月曜日から金曜日の午前9時から午後0時30分まで、1月あたり10時間が上限。
 - ・利用者支援事業…こども家庭センター型で事業を実施し、延べ106人に対応。
 - ・放課後児童健全育成事業…矢作小学校区を除く7小学校区の10か所で実施。矢作小学校の利用希望者は長期休暇期間中に気仙小学校区の学童クラブを利用。
 - ・子育て短期支援事業…児童養護施設1か所と契約。昨年度はショートステイ事業で延べ7人、トワイライトステイ事業で延べ9人が利用。
 - ・乳児家庭全戸訪問事業…母子保健法で同様の事業を実施。昨年度は55件の訪問実施。
 - ・養育支援訪問事業…保健師がリスクを抱えている家庭、保護者に継続的な支援を随時実施。
 - ・地域子育て支援拠点事業…直営3か所、民間施設1か所で実施。子育て支援センターたかたは子どもの遊び場として土・日・祝日の月曜日も開所。
 - ・ファミリー・サポート・センター事業は未実施。類似事業として子育て応援ヘルパー派遣事業を実施し、昨年度は76時間分の利用があった。
 - ・妊婦健康診査…昨年度の利用実績は延べ610件。
 - ・産後ケア事業…デイサービス型とアウトリーチ型の事業を実施。昨年度、デイサービス型は延べ100人、アウトリーチ型は延べ7人が利用。
 - ・医療的ケア児等在宅レスパイト事業…令和8年度から実施。市内に居住し、住民登録がある者であり、在宅で医療的ケア児の看護や介護を行っており、訪問看護を利用している医療的ケア児の家族が対象。利用時間は、1四半期ごとに24時間まで、1日1回を限度として、1回あたり1時間以上8時間以内。
 - ・子育て世帯訪問支援事業…令和8年度から実施。市内に居住し、住民登録がある児童や保護

者または妊婦であり、本人からの相談や関係機関からの情報提供により、支援が必要と認められる状態にある者が対象。利用期間は原則 3 か月以内で、利用回数は原則 1 週間に 1 回、利用時間は原則 1 回あたり 1 時間。

(質疑応答・意見)

- ・病児・病後児保育事業の利用人数が 10 人ということだが、年齢別等の内訳を教えてください。

<回答>

未就学児童が 10 人と把握しているが、手元に詳細な資料が無いので、後日報告する。

- ・医療的ケア児の在宅レスパイト事業で、利用している方はどのくらいいるのか。

<回答>

令和 8 年度からの事業として開始しているが、現在まで利用はない状況である。

- ・地域保育事業で現在休止状態とのことだが、入所希望がないためか、その園の都合か教えてください。

<回答>

地域型保育事業のゆいま〜るたかたは、事業者の都合により休止となり、体制が整っていないとの報告を受けている。

- ・ゆいま〜るでは、運営開始から利用者はいたのか。

<回答>

定員 5 名として、5 名の受け入れを行っていた。

- ・その 5 名は別な保育施設で受け入れたのか。

<回答>

そのとおり。

- ・乳児等通園支援事業について、令和 8 年度からの実施とのことだが、これまでに利用はあったか。

<回答>

現在のところ、利用はない状況である。

(3) 陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第 3 期）の進捗状況について

(事務局説明要旨)

- ・陸前高田市子ども・子育て支援事業計画（第 3 期）基本方針に基づく事業の取組状況について
 - ・幼児期の教育・保育の充実では、一時預かり事業や延長保育事業等に対応。副食費の無償化では、令和 7 年度においても公定価格の改正と合わせ上限額の引き上げを行った。
 - ・教育機会の確保とキャリア教育の推進では、中学生イングリッシュキャンプ事業として、市内の中学 1 年生を対象に外国人留学生との英語による交流活動により、国際的な視野の醸成を行った。奨学金の貸付は、令和 7 年度に 27 人に支給を行い、市内に住所を有し就業している 17 人に対し減免を行った。奨学金の給付は、令和 7 年度に 54 人に対し支給を行い、大学等への進学に対する経済的負担の軽減を図った。
 - ・発達支援・療育支援体制の充実では、関係機関との連携、情報共有に努め、保育所では障がい児保育事業としてサポートが必要な児童へ加配保育士の配置、市内各小中学校では特別支

援教育支援員の配置により、児童の特性に応じた支援に努めた。

- ・要保護児童対策の取り組みの推進では、要保護児童対策地域協議会を中心に児童虐待防止やケース対応を行った。社会的養護への支援として里親制度の周知のために市内施設へのパネル展示等に協力した。
- ・被災児童に対する支援として、遺児・孤児への支援金の支給や、小中学校へスクールカウンセラー３名、市で雇用した２名を配置により心のケアに努めた。
- ・安心して子どもを産み育てられる環境の整備では、ママパパ教室として、妊娠・出産・子育てに関する情報提供と子育て世帯の親同士の情報交流の機会として、延べ４９人参加。妊婦健康診査では、１４回分の妊婦健診と子宮頸がん検診に対して助成し、未受診者は０人。妊産婦交通費支援事業では、令和７年度より支給上限額を２万円から１０万円に大幅に引き上げ、５３人に支給。産後ケア事業では、アウトリーチ型、デイサービス型に加え、デイサービス型産後ケアを大船渡病院に委託し、産後ケア全体で延べ１０７人参加。子育て応援ヘルパー派遣事業では、令和７年度は７６時間分の利用があった。
- ・相談支援体制として、子育てや家庭、就学等に関してそれぞれの相談員の対応や関係機関の情報連携による早期支援を図った。
- ・経済的支援の充実では、子育て応援事業として子育て応援クーポン券の継続や、就学援助事業として学用品等の必要な援助を行い、保護者の経済的負担の軽減も図った。
- ・ひとり親支援では、ひとり親家庭の資格取得の助成による就業支援を継続。ひとり親医療費助成事業等では給付対象は３００人から４００人で推移。
- ・地域全体で子育て支援の地域における子育て支援の充実として、コミュニティスクールとして、全小中学校に学校運営協議会を設置して地域ぐるみで特色ある学校づくりを推進した。
- ・子育てにやさしいまちの環境の整備では、子どもの遊び場の確保として、市内５か所の保育園の園庭開放の実施や、新たに夢アリーナの室内遊具、広田コミセン東側空き地に遊具を設置した。
- ・仕事と子育ての両立を支援する就労環境の整備促進では各種制度を随時周知した。就労準備支援により職場への定着支援を行った。
- ・第３期計画 教育・保育利用の量の見込みと実績
 - ・令和７年度の実績の確定値として変更なし。
- ・第３期計画 地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと実績
 - ・令和７年度の実績は、全体として計画値を下回った事業もあるが、妊産婦等相談支援事業、地域子育て支援拠点事業は利用が増加。
- ・第３期計画 放課後児童対策の実績
 - ・放課後児童クラブの４年生以外は計画値よりも少ないが、概ね計画値に近い数値になった。放課後子ども教室は利用児童数が大幅に増加。

(質疑応答・意見)

- ・市内５か所の保育園の園庭開放について、場所はどこか。また、土曜日の開放か。

<回答>

令和７年度から陸前高田市保育協会で運営する広田保育園、米崎保育園、竹駒保育園、横田保育園、下矢作保育園の５か所について、土曜日の午前中に開放している。

- ・土日の子どもの居場所として、土・日・祝日の開放している日の利用は、職員が常時いて、自由に入れるのか。

<回答>

土日の子どもの居場所については、専門の職員を配置し、予約なしで利用できる。

- ・ 広田町に作った遊具は使われているか

＜回答＞

使われていると聞いている。

- ・ 資料４－１の令和７年度の実績値が令和７年４月１日時点になってるが、どのように捉えればいいか。

＜回答＞

計画値を４月１日時点で設定しているため、令和７年４月１日時点の実績を令和７年度分として報告する形をとっている。

(4) 陸前高田市子ども計画策定に係るアンケート調査の実施について
(事務局説明要旨)

- ・ 陸前高田市子ども計画策定アンケート調査の目的について説明。
- ・ 調査時期、調査対象、調査方法、調査設問の予定について説明。

(質疑応答・意見)

- ・ アンケートの調査対象が、小学５年生から３９歳までと幅が広いが、対象者によってアンケート内容は異なるか。

＜回答＞

小学校５年生と中学校２年生に関しては、設問は同じになるようなイメージをしているが、高校生から３９歳までの若者は、小学生、中学生とは別な設問を準備し、２種類のアンケートを取る予定としている。

- ・ アンケートの内容は、これから決めるのか。すでに決まっているが、まだここには出していないのか。

＜回答＞

アンケートの設問については、具体的に決まっているものはないが、子ども大綱等で決まっているテーマに沿った形の設問と、陸前高田市の地域に対する考え方などの独自の設問を想定している。子ども大綱で定められているテーマは、多様な人格・個性の尊重、権利の保障、最善の利益、ライフステージに応じた切れ目のない支援、良好な成育環境の確保、貧困の格差の解消、若い世代の生活基盤の安定等をテーマとしておりますので、それらに関する設問を検討していきたいと考えている。

- ・ 令和８年度にアンケート調査の取りまとめをして、令和９年度に令和１０年度からの子ども計画という策定するという流れとなるのか。

＜回答＞

そのようなスケジュールで考えている。

(5) 市内保育施設の認可定員の変更について（資料６）
(事務局説明要旨)

- ・ 令和８年４月からの認可定員を、広田保育園では７０人から５５人に、米崎保育園では８０人から７０人に、横田保育園では２０人から２５人に、竹駒保育園及び下矢作保育園では、年齢

区分別の認可定員をそれぞれ変更するとの申請が、認可権者である県に提出され、これが認められた。各保育園では、地域ごとの入所児童の実情に合わせて、定員設定の変更を行ったものであり、今後の保育需要にも応えられると捉えている。

(質疑応答・意見)

・なし。

(7) その他

- ・ こども計画の策定内容は、この会議において素案を審議するのか。 それとも、また別にあるのか。

＜回答＞

アンケート等を踏まえた上で、来年度、皆様の意見を聞きながら、子ども計画を策定していきたいと考えていることから、この会議に諮っていききたいと考えている。

- ・ こども計画のフレームワークというのが、まだ分からない段階でのアンケート調査ということになると思うため、アンケート調査を先行して行い、そのフレームができた後に、補完する意味のアンケートも必要になることが想定される。そのような場合は、令和9年度にも大きな規模のアンケートではなくても、小さな規模でもアンケートが必要になると思うため、経過を見ながらお願いしたい。

6 その他

なし。

7 閉会